ハーモニー

Harmony

第96号　2025年2月26日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

General Incorporated Associations
Japanese Association of *Yogo* Teacher Education

（一社）日本養護教諭教育学会

事務局：〒162-0801
東京都新宿区山吹町358-5
アカデミーセンター
TEL　03-6824-9398
FAX　03-5227-8631
振替口座：00880-8-86414
jayte-post@as.bunken.co.jp

目　　次

第2期理事長挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第2期理事挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第32回学術集会において開催した「プレコングレス」の様子（写真）・・・3
第32回学術集会の報告とお礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第32回学術集会を振り返って<参加者アンケート結果>・・・4
第32回学術集会に参加して（会員の声①②③）・・・5
第33回学術集会のご案内 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第32回学術集会「投稿奨励研究」の選定報告・・・7
2025年度の「研究助成金研究」の募集について（募集期日等変更のお知らせ）・・7
養護学の構築にむけたプロジェクトについて・・・・7
理事会の議事について（報告）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
事務局からのお知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

第2期理事長挨拶
－広め、つなぎ、深めることによる発展を願って－

新理事長　後藤ひとみ（前愛知教育大学）

本学会の設立は1992年11月21日、一般社団法人の成立は2020年11月6日でした。早いもので、設立から32年余り、法人化から4年余りが経過しました。法人化後の第1期代議員の任期は、事業期間上は2024年9月末（実際には新理事が選出される代議員総会の日まで）でしたので、昨年、地区別の選挙によって第2期代議員46名が選出されました（ご氏名等の一覧は学会HPをご覧ください）。

そこで、昨年12月6日に第4回定時総会（代議員総会）並びに第1回臨時総会（代議員総会）が開催され、第2期の理事16名（選挙による9名、推薦による7名）が選任されました。その後、選挙による理事の投票によって理事長候補者に選出されていた私が、全理事による臨時理事会において新理事長に選任されましたことをご報告いたします。

次頁以降には、第2期理事のご挨拶が掲載されています。監事2名を合わせた18名で、2024年度～2026年度の学会運営を担ってまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、新理事会で承認されました第2期事業について述べるにあたり、その前提となる第1期事業の成果と課題を概観しておきたいと思います。

第1期では、法人化を契機とした業務の執行として、これまでの課題5項目（会員との交流機会や会員参加場面の不足、理事会中心の運営体制など）を示し、その対応策として、①迅速で確かな事務局対応、②本会に関する広報・宣伝活動の活性化、③会員間の情報共有、④会員への情報提供、⑤子どもの育ちを支える養護教諭像の提示、⑥役員間の養護教諭教育に対する共通理解、⑦学会活動を支える各委員会活動の活性化（常任理事会の実質化）の7項目を掲げました。これらに対する3年間の総括として、①③⑦は達成できている、②④⑤は十分ではない、⑥は研修機会を設ける必要があると判断しました。

また、第1期は新型コロナウイルス感染症への対応で学術集会の開催や学会設立30周年記念事業の実施などに配慮を要しましたが、その結果、オンライン開催やハイブリッド開催のノウハウを有するようになりました。

以上の実績と課題をふまえて、第2期は次のような事項に取り組んでまいります。

第1：4委員会の構成メンバーの拡充による学会全体の運営体制整備、第2：他学会等とのコラボや雑誌等への企画掲載による本会事業の広報充実、第3：オンライン研修会等の計画的実施や学術集会の活用による会員間の交流機会の充実、第4：ツール等整備による会員への情報提供の充実、第5：HPでの養護教諭の倫理綱領の周知や学会誌・機関紙ハーモニーによる多様な養護実践の紹介、第6：養護教諭教育に関する学術的広報の工夫と査読作業への活用

これらの事項を意識し、2024年度は定時総会で承認されました計画に則り、定例の事業に加えて委員会活動の活性化や「養護学の構築にむけたプロジェクト」に関する会員全体での意見交流の場の設定を行っていきます。

会員の皆様におかれましては、今後ともご支援とご協力のほどをお願いいたします。

第２期理事挨拶

総務担当の常任理事として

常任理事（総務担当）　塚原加寿子（新潟青陵大学）

今期、常任理事として総務を担当することとなりました。これまでの学会の歩みを学ばせていただきながら、学会運営がスムースに進むよう尽力していきたいと思っています。今後とも、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。会員の皆様のご意見やご要望をお待ちしております。

新理事あいさつ

常任理事（学術担当）　鈴木裕子（国士舘大学）

引き続き常任理事（学術担当）を務めます。昨年度までの第１期を振り返ると、コロナ禍の影響もあって、会員との直接的なかかわりが少なかったような気がします。学術集会等での交流はネットワークを広げる機会であると同時に、そこでのディスカッション等が学術研究の発展にもつながるものだと考えます。今期は、より多くの会員同士が交流をはかり、養護教諭教育の発展につながるような場を増やせるとよいと思っています。

新たな役割を担って

常任理事（編集担当）　西岡かおり（四国大学）

今期、常任理事として編集委員会を担当することになりました。編集委員会は、学会の顔ともいえる学術誌と会員の皆様への情報発信を担うハーモニーの発行（発刊）が大きな使命です。養護教諭教育に寄与できる、質の高い論文を発信できるよう努めます。会員の皆様のご協力を得ながら、編集運営を進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

次世代の養護教諭につなぐために

常任理事（広報担当）　浅田知恵（愛知教育大学）

今期より広報活動を担当させていただきます。2023 年度に、本学会の HP に創刊号からの日本養護教諭教育学会誌がアップされました。卒業研究や教職大学院の授業で、学生が本学会の論文を探してくると、次世代へのつながりを感じて嬉しくなります。養護教諭とその養成や研修をはじめ、学会活動や研究など、会員の皆様にわかりやすく役立つ情報を発信してまいりたいと思います。是非、有用な情報やご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

会員の皆様の架け橋となるために

理事　荒川雅子（東京学芸大学）

今期より理事として編集委員会に携わることになりました。編集委員の一人として、会の顔である学会誌、ハーモニーが会員の皆様の声を届け、交流の場となり、皆様の架け橋となるよう努めてまいりたいと思います。皆様も、どうぞ積極的にご意見ご要望をお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします。

若い世代へ繋ぎたい

理事　井澤昌子（名古屋学芸大学）

推薦理事として、編集委員を拝命いたしました。約 30 年前の学会創設時には学生として、その後は数年間幹事として学会事務局のお手伝いをさせていただき、理事長をはじめとする理事の先生方の背中を見ながら、多くのことを学ばせていただきました。今期からは理事として、自分より若い世代の方々にも本学会の意義や魅力を伝え、学会の発展と子どもたちのウェルビーイングに貢献できるよう精一杯取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

理事就任にあたって

理事　岩崎和子（北海道教育大学）

北海道・東北の選出による理事をお引き受けいたしました。今までの本学会との関わりは、2018 年～ 2020 年までの監事、2021 年度から 2023 年度は総務委員としての 30 周年記念式典や記念誌発行等への協力です。理事は初めての就任となります。

今年度は編集委員会に属し、編集に関する仕事について尽力してまいります。多くの会員の皆様と交流でできる機会が持てますことを願っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

２期目の理事就任にあたって

理事　植田誠治（聖心女子大学）

一般社団法人化されて２期目となります理事を務めさせていただくことになりました。理事長からもお話いただいていますが、僭越ながら現在、（一社）日本学校保健学会の理事長を務めさせていただいていることもあり、そこでの経験からもお役に立てることがあればと考えております。また、両学会のさらなる連携を図り、子どもたちの健康とウェルビーイングを守り育てることに貢献したいと考えております。よろしくお願いいたします。

新理事としての挨拶

理事　大川尚子（京都女子大学）

今期は、広報委員を担当することになりました。会員の皆様からご協力をいただきながら、学会からの情報や養護教諭教育に関わる情報を発信していきたいと思います。是非とも、会員の皆様からの様々な情報やご意見、ご要望をお寄せください。会員の皆様に役立つ情報を、HP やメールで発信していきたいと思います。

養護教諭教育学会の発展に向けて

理事　奥田紀久子（徳島大学）

この度、本学会の理事に就任いたしました。学会のこれまでの歩みを大切にしながら、今後さらに養護教諭の教育・研究の発展に貢献できるよう努めてまいります。めまぐるしく変化する社会の中で、子どもたちのウェルビーイングを高めるために養護教諭が果たす役割はますます重要になっています。本学会の使命を深く自覚し、会員の皆

様とともに学び合いながら、学会運営に尽力する所存です。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

現職養護教諭が理事になることの意味

理事　加藤晃子（学校法人滝学園滝中学校滝高等学校）

前期から引き続き総務担当理事を務めさせていただきます。前期理事就任にあたり、「現職養護教諭であることを強みに、『現場感』を学会運営に活す」ことを自らのテーマとしてきました。引き続き、現職の養護教諭を理事に推薦いただいた意味を問いながら、現職養護教諭が豊かな実践を展開するために何が必要か、どのような学びを求めているか等を探究していきたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。

理事就任のご挨拶

理事　亀崎路子（杏林大学）

茨城県水戸市で開催された総会等に出席し、熱意あふれる言動に触れて、背中を押されました。養護教諭のつかさどる「養護」の専門性のユニークさに魅かれて、これまで、自分の好きな道を自由に歩んできましたが、理事にご推薦いただき、心引き締まる思いでおります。本会が、そのユニークさを支える論を生みだす場として成長してこられたことに敬意を表し、自分に何ができるかを問いながら、より一層、皆様とともに努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

養護教諭教育への思い

理事　平井美幸（大阪教育大学）

私は、教職大学院での教育・研究指導に従事するようになり、6年を終えようとしています。それは「養護教諭教育について探究してきた立場から、教諭等へ何を伝えることで子どもや保護者に貢献できるのか」を問い続け、手応えを感じる日々でした。

この度、第2期理事として、「全校種の幅広い教員との関わりを通して得た知見をもとに、養護教諭教育に貢献するには」を問う日々になるだろうと思っています。微力ではございますが、本学会に報恩できますよう努めてまいりたいと存じます。

理事就任にあたって

理事　松崎美枝（九州看護福祉大学）

九州地区の代表として理事を拝命いたしました。

昨年度までは文部科学省で健康教育調査官として勤務しており、その際には皆様から多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

この度、大役を仰せつかりましたが、これまでの経験を活かし、全力で取り組んでまいります。不慣れな点も多々あるかと思いますが、皆様のご指導とご支援をいただきながら、頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

再デビュー

理事　松永　恵（茨城キリスト教大学）

3年ぶりに理事に就任します。長く編集委員会におりましたが、少し休み（学術集会をしていました）、今期は総務を担当します。法人化してからは初めての仕事で、会議の進め方にまだ戸惑っています。発信するためには、まず皆様のお考えを知ることが大切だと思います。初めてだからと遠慮せず、お気軽にお声をかけてください。

■なお、監事は2年任期の2年目となりますので、任期途中のご挨拶を行っておりません。お名前のみご紹介いたします。

- 河田史宝（前金沢大学）
- 古賀由紀子（前九州看護福祉大学）

第32回学術集会において開催した「プレコングレス」の様子

○テーマ：今問われている、子どものウェルビーイングを考えよう

○企　画：理事会、運営：総務委員会、広報委員会

■開催内容については、学会誌第28巻第2号に掲載しますので、是非ご覧ください。

第32回学術集会の報告とお礼

学会長　松永　恵（茨城キリスト教大学）

2024年12月7日（土）、8日（日）に茨城キリスト教大学（日立市）にて、日本養護教諭教育学会第32回学術集会を開催いたしました。昨年に引き続き、対面とオンラインのハイブリッド形式での開催でした。全国各地からお申し込みをいただき、参加者総数は247名、会場には149名の方にお越しいただきました。

テーマは「養護教諭の実践を省察し知を創造する―ジレンマの意味を問い直す―」としました。理事長よりお話をいただいた時、これまでお世話になった多くの先輩方の顔や声、そして編集委員として多くの投稿者様に伴走させていただいたこと、さらに悩みながらもよりよい養護を学びたいと学術集会に足を運ばれる皆様のことが思い浮かびました。目の前にいる児童生徒のために悩みながら行っていることが最も尊いのだと思います。そして多くの人たちが、私たちの一言に救われ成長しています。教育の成果はわかりづらく、つらい作業ではありますが、今後も様々な背景を持つ会員がつながり、尊い養護を言語化し「知」を創造していくことを願いました。

プログラムとして、大学院の講義で「省察的実践」を教えてくださった斉藤ふくみ先生と姉弟子の米嶋美智子会員にシンポジウムを、提唱者の著書を翻訳し紹介してくださった三輪建二先生に特別講演をお願いできたことは幸運でした。参加者の皆様におかれましてはじっくり振り返ることのできる1日になったことと思います。企画の一部につきましては学会誌に報告いたしますので、お目通しいただければ幸いです。

2日目の一般発表、ランチョンセミナー、ワークショップに至るまで、日々の実践に近いプログラムを組むことができたことも幸運でした。どの教室も熱気にあふれ、エントランスには語り合う声が響き、近くに店や観光地はありませんでしたが、充実した2日間を過ごしていただけたと自負しております。ご発表くださった皆様に感謝申し上げますとともに、是非投稿して、参加できなかった会員とも共有していただきたいと思います。

とはいえ、例のない企画を進めていくのは、当日まで不安でいっぱいでした。理事の皆様、特に学術担当の鈴木裕子理事には多大なご助言を賜りました。また、企画の立ち上げから「おもしろいですね」と支えてくれるだけでなく、私よりおもしい提案をする妹弟子の湯原実行委員長、私の緩い指示から類推し、積極的にコミュニケーションをとり進めてくださった実行委員には感謝に耐えません。特にコアチームの4人で18回のオンライン会議を重ね、ひとつひとつ達成していき、解散するのが寂しく思いました。若いメンバーばかりでしたので、今後につながることを期待しています。

第32回学術集会を振り返って

実行委員長　湯原裕子（聖徳大学）

本学術集会は大学教員4名がコアチームとなって1年半に渡って準備を進めてきました。私自身このように大きな学術集会の運営に携わることが初めてでしたので、当初は本当に不安でしたが、松永先生の温かなご指導のもとで何とか務めることができました。大変光栄なことであり、本当によい勉強の機会になったと感謝しております。

また、当日の運営に向けて、各会場担当に養護教諭8名を配置し、8月と12月に打ち合わせ会を実施、加えて当日は協力員として12名の養護教諭、17名の学生スタッフにお手伝いをいただきました。41名のスタッフのほとんどが、学会運営だけでなく学会自体に参加することが初めてのメンバーです。茨城に足を運んでくださる皆様を歓迎し、学術集会を成功させようという思いで一丸となり、一人一人が主体性をもって考え、専用のLINEグループでタイムリーに情報共有をしながら、臨機応変に動きました。メンバーの人柄や対応力にとても感謝しています。オンライン参加者には発表者のスライドを共有することに加え、会場全体の様子をビデオカメラから配信しました。ハイブリッド形式を経験したことがある実行委員が経験や知恵を持ち寄り、入念に事前準備をしたことで、会場の臨場感を伝え、一体感をもって参加していただけたのではないかと思います。

各会場は熱心に学ぶ姿勢で活気にあふれ、廊下やフロアでは笑顔と温かい雰囲気がみられました。学会員をはじめ参加者お一人お一人のご理解、ご協力によって豊かに学び心温まる会になり、盛会に終えることができました。また皆様から温かいお言葉や労いのお気持ちをいただきました。深く感謝申し上げます。

＜学術集会参加者アンケート結果＞

アンケートにご協力いただきありがとうございました。79名の方からご回答をいただきました。結果の概要と貴重なご意見を抜粋してご報告いたします。

1．参加方法
　会場54.4%　オンライン41.8%
　会場とオンライン3.8%
2．会員の種別
　会員69.6%　会員外30.4%
3．学術集会を知った手段（複数回答）
　いつも参加している29人、学会ホームページ29人、知人の紹介21人、ハーモニー21人、チラシ20人、学会誌19人、雑誌等の記事10人、他
4．参加した感想
　大変良かった52人、良かった25人、
　どちらともいえない2人
5．シンポジウムについて
・養護教諭の抱えるジレンマの根底に、養護教諭だから

こその思いや大事な意味があることに気づかされた。

- 日常、自身が感じている「教室へ帰す」に対するジレンマが言語化され、これからの保健室対応を省察して研究的視点を持ちたいと思った。
- 養護教諭自身がジレンマを感じながらも、生徒自身の気持ちを尊重し正解より最適解を見つけていくことでジレンマが緩和されるのかなと感じた。

6. シンポジウム以外について

- 特別講演では、「沼地」という言葉、特別講演の副題でもあった「問題の設定」をすることの大切さを学び、新たな視点となった。
- 日常感じるジレンマについて自身が肯定し向き合うこと、実践の意図を言葉にすること、養護教諭には問題解決者を育てる役割があることを確認した。
- 学会長基調講演では、ご自身の養護教諭としての経験、研究や分析から「省察」や「ジレンマ」についてのお考えや思いも伝わり、省察することやジレンマと向き合うことの大切さを改めて感じ、考えることができた。
- 「プロジェクト報告」では「養護学」の学術的な高まりを感じた。「養護学が独自の学問であるかを問う意味はその学問を基盤に生きることを独自の業とする養護教諭にとって非常に重要な課題である」という言葉そのものが本学会の存立意義の根幹に位置づくものだと力強く感じている。
- ワークショップでは学びとモチベーションを持ち帰ることができた。若手とベテランの混合グループで協議を深められた。
- 「てんかん」のランチョンセミナーでは、子どものQOLを保障するため、「いかにして他の子どもたちと同じように生活できるようにするか」というインクルーシブの概念に立った安全管理の必要性について示唆をいただいた。
- 「小児がん」のランチョンセミナーでは、当事者の貴重な声を聴くことができ、心が動かされ、あらためて教育の果たす役割を考えることができた。

7. その他

- 会場に行くことができず、オンラインで参加だった。何の不都合もなく、有意義な2日間だった。
- わかりやすい会場で移動しやすく、スタッフの方々もよく気遣ってくださり、とても心地よく参加できた。
- 豊かに深く考える時間をいただける上にアットホームなこの学会が大好き。今年も養護教諭っていいな…と心から思える時間だった。
- おにぎり弁当、美味しかった。
- 情報交換会も盛り上げていただき、心温まるおもてなしがとても嬉しかった。
- オンラインでも参加できるワークショップを企画してほしい。

第32回学術集会に参加して(会員の声①)

髙田恵美子(畿央大学)

日本養護教諭教育学会第32回学術集会に参加させていただきました。松永恵学会長をはじめ、実行委員、協力員の皆様、開催にあたりご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。1日目は、メインテーマの「養護教諭の実践を省察し知を創造する―ジレンマの意味を問い直すー」にどっぷり浸るプログラムでした。学会長基調講演での「ジレンマの意味を問い直し気づく『譲れない思い』こそが養護教諭らしさ」、特別講演での「『問題の解決』に急ぐ前に、『問題の設定』を行う」、シンポジウムでの「養護教諭が子どもを教室に帰す際のジレンマの意味」などをお聞きし、実践の省察と養護教諭の本質についての理解が深まりました。

2日目の一般演題発表においては、学生からベテランの先生方までの幅広い研究について交流することができ、多面的・多角的に考えることの重要性を再認識しました。ワークショップでは、現職養護教諭の指導のもと、Canvaを体験しました。保健室経営にICTを活用することで業務の効率化だけでなく、児童生徒が保健教育や委員会活動などに積極的に参加できるなどの効果を実感することができました。さらに、情報交換会のご当地問題早押しクイズ大会では、賞品の大みか饅頭ゲットに力が入りました。温かなおもてなしに感謝です。

次回の第33回学術集会は京都市での開催が予定されており、私は事務局長として企画運営に携わっています。学術集会では、京都の晩秋の趣を感じながら、本学会の使命である「養護教諭教育(養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動)に関する研究とその発展」について、ご参加の皆様と、熱い、厚い交流ができるよう準備を進めております。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

第32回学術集会に参加して(会員の声②)

舘野智子(龍ケ崎市立城ノ内小学校)

昨年度会員になった私にとって、今回は3回目の参加にして初めての会場参加でした。私事ですが養護教諭として20年目を迎えた今年度は、「子ども達へのふだんの対応を大事にしているか。養護だと思って実践していることは子どもにとって本当の養護になっているか。中堅養護教諭となり、担任はいつの間にか年下ばかりになり、自分のやり方を疑いもせず正当化して省察することを怠っていないか」と考える機会が特に多かったので、今回のメインテーマは日々悩む身にピッタリなテーマでした。おそらく、どの年代の参加者にとっても、松永学会長の基調講演をはじめ三輪建二先生の特別講演、そしてシンポジウムと「わかるわかる」と共感の嵐だったのではないでしょうか。

今回、会場初参加で驚いたことが3点あります。1点目は託児があったことです。ここ数年ハイブリッド開催が当たり

前になった学術集会ですが、やはり全国から集まった仲間の熱気を感じながら、合間に意見交流や情報交換をしながら参加できる会場参加の魅力は大きいものです。子どもを信頼できるプロに預けて学術集会に参加できるという配慮に感激しました。2点目は1日目終了後の情報交換会です。全国各地から集まった参加者や講師の方々と飲食を共にし、養護教諭ならではの話題に花が咲き、さらにご当地クイズで盛り上がれる楽しい場があることはオンライン参加では味わえませんでした。3点目はランチョンセミナーです。お弁当をいただきながら、てんかん治療の第一線で活躍されている奥村先生の貴重な講演を聞き、現職の養護教諭からの質問にも答えていただける大変有意義な時間でした。

会場参加未経験の皆様、次回は是非会場でお会いしませんか。

第32回学術集会に参加して(会員の声③)

石井更紗・岩橋花季(北翔大学学生)

日本養護教諭教育学会第32回学術集会の開催に向け、準備にご尽力された皆様に心より感謝申し上げます。

1日目のシンポジウムでは、3名の異なる立場に立つ先生方のご講演を拝聴し、課題意識の共有や児童生徒の成長を見据えた対応など、学生の立場として学びになると共に養護教諭の役割について考えることが出来ました。

2日目には僭越ながら口演発表をさせていただきました。本研究では多くの先生方にご指導ご協力をいただき、データの収集・分析を行いました。質疑応答では、私たちが参考とさせていただいた論文著者の千葉大学工藤宣子先生から自分たちでは気づかなかった視点でのご助言や分析方法に関するご指摘をいただき、感激しました。このような経験も学会で口演発表したからと改めて発表する大切さを感じました。座長の髙田恵美子先生、フロアの先生方からのご助言も今後の研究課題として改善していきたいと思います。また、先生方の口演発表をお聞きし、教員研修や保健室での実践など様々な視点から研究されており、勤務される中で積極的に課題に向き合っている姿に感銘を受けました。これから養護教諭として勤務する際には、より児童生徒が安心して通うことが出来る学校の一助となれるよう、常に課題意識を持ち、精進してまいります。

初めて学術集会に参加し、貴重な経験と学びを得ることが出来ました。また、特別講演やランチョンセミナーで現職養護教諭の方々のお話を伺い、現場で働くようになってからも悩むことがあってもいいのだと感じ、学術集会に参加することや他の養護教諭の方と交流し意見交換することの重要性を実感しました。まだまだ未熟だからこそ、知見を深めるために是非今後も参加させていただきたいと思います。

第33回学術集会のご案内

学会長　大川尚子(京都女子大学)

一般社団法人日本養護教諭教育学会の第33回学術集会を、京都市にある京都女子大学で開催します。会場はJR京都駅よりプリンセスラインバスで約15分のところにあり、大学の近くには清水寺、智積院、三十三間堂等もあります。是非とも対面でご参加いただきたいと考えていますが、オンラインの方が参加しやすい方もいると思いますので、Web 配信によるハイブリッドでの開催とします。

メインテーマは、「子どもたちの Well-being を支える養護教諭の役割(仮)」としました。2023 年 6 月に新たな「教育振興基本計画」が閣議決定され、不登校やいじめ、貧困など、子どもたちの抱える課題が多様化・複雑化する一方、将来の予測が困難と言われる時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていくこと(持続可能な社会の創り手の育成)、また、一人一人のウェルビーイングを高め、社会全体のウェルビーイングの向上を目指すこと(日本社会に根差したウェルビーイングの向上)の重要性が議論され、教育基本計画の総括的なコンセプトとして位置づけられました。

今回の学会では、子どもたちのウェルビーイングを支えるための養護教諭の役割や学校の福祉的役割について焦点をあて、皆様と一緒に考え、深めていきたいと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1．期　日：2025 年 12 月 13 日（土）～ 14 日（日）
2．会　場：京都女子大学
〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35
（ハイブリット開催。参加者には Web 配信あり、発表者は対面で行う）
3．学会長：大川尚子（京都女子大学）
4．メインテーマ：「子どもたちの Well-being を支える養護教諭の役割（仮）」
5．内　容：学会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、学会助成金研究発表、一般口演、ポスター発表、ワークショップ、プレコングレス（予定）
6．特別講演：「プロ囲碁棋士に学ぶメンタルコントロール術（仮）」（オンデマンド配信）
井山裕太氏（日本棋院関西総本部所属の囲碁棋士。九段。2018 年には国民栄誉賞を受賞）
7．教育講演：「子どものウェルビーイング（仮）」
内田由紀子氏（京都大学　人と社会の未来研究院　教授：文部科学省中央教育審議会委員）
8．その他：詳細は、日本養護教諭教育学会公式ホームページに随時掲載します。

第32回学術集会「投稿奨励研究」の選定報告

学術担当常任理事　鈴木裕子

選定に関する内規に基づき、第32回学術集会で発表された演題の中から、学会長、座長、理事のご推薦をいただいた結果、次の2題が選定されました。

- 吉村知容（四天王寺大学）ほか「各自治体の学校における性教育の手引きの作成実態と特徴」
- 岩橋花季（北翔大学）ほか「保健室対応場面における熟練養護教諭経験者と養護教諭志望学生の実践的思考様式に関する比較研究」

選定された研究には学会誌への投稿を奨励し、投稿に際して必要となる査読費用8,000円を免除します。また、学会誌掲載時には投稿奨励研究であることが明記されます。

2025年度の「研究助成金研究」の募集について（申請期日等変更のお知らせ）

学術担当常任理事　鈴木裕子

本会では、養護教諭教育（養護教諭の資質や力量形成及び向上に寄与する活動）に関する特色ある研究1件につき10万円の研究助成を行っています。しかし、昨秋募集した2025年度の助成には期間中の応募がありませんでした。

一方、本会法人化以降、事業年度が10月1日から翌年9月30日までに変更になったことにより、研究助成の期間や助成金の振込時期がわかりにくいという課題が生じていました。

そこで、前期の理事会において申請時期や助成期間等を次のように定めることにしました。

- 助成期間は事業年度の期間と同じにする
- 助成金は総会後に振り込む
- 募集は夏までに行い、9月または11月開催の理事会で選定する

つきましては、来夏に改めて2025年度の募集を行います。次号ハーモニー等で改めてご案内しますので、ご応募に向けてご検討をどうぞよろしくお願いします。

＊お問い合わせは下記までメールにて。

学術担当常任理事　鈴木裕子（国士舘大学）
メールアドレス　suzukiyu@kokushikan.ac.jp

養護学の構築にむけたプロジェクトについて

代表　徳山美智子（元大阪女子短期大学）

本プロジェクトの進捗状況は，2024年6月28日及び11月14日発行のハーモニー第94号・第95号にてお知らせしているとおりです。メンバーは，正会員•代議員•理事の自薦•他薦により選出された12名で，オンラインを駆使して検討を重ねてきました。

まず，教育職員免許法施行規則の「養護に関する科目」の構成に，「養護概説」が「学」として位置づけられていないという制度面の事実から，「養護学」は，「学」として構築されていない，したがって，我が国の養護教諭制度の変遷に鑑みて，「養護学の構築」と「教育職員免許法施行規則改正」という制度面の改善を認識して進めることが肝要であることを共有しそれを可視化し，活動を始動しました。

全メンバーの多大な尽力により，2023年度の取組については，48ページの報告書にまとめ，9月29日開催の第3回理事会において報告しました。

活動の成果と課題の要旨については，「養護学」研究の独自性・固有性を主張する必要があり，「対象」と「方法」の両者の追究を一体化して取り組む必要があること。教育学・心理学・医学・看護学を整理した結果，学問の主要な要素として，【主要な概念】，【対象の範囲】，【主要なアプローチの区分•体系】，【他分野との関係】，【固有の視点】，【役割】の6項目が示されたこと。また，「養護学」固有の特性として，【「養護学」を捉える視点】，【養護の対象】，【養護の本質と法】，【方法論】，【他領域との関連性】の5点が挙げられたこと。これらをさらに吟味することで，学問構築にむけた追究の要素が見えてくるはずであること。「養護学」の構築における必要性と有用性を確認したところ，養護教諭の実践と養護教諭養成教育・採用・研修という分野に対して，その根拠を示したり，体系的な学びと実践構築の根拠を示したりすることで，養護教諭の熟達化にも寄与できる。ゆえに，「養護実践」の分析も重要であることとまとめました。これらについて，第32回学術集会において報告しました。当日，会場から「養護というと福祉や保育分野でも使われる用語である。本プロジェクトでの養護の対象と領域，その範囲をどうとらえているのか」と質問をいただきました。それに対し，「養護教諭の行う養護であり，その対象は，成長発達期（児童生徒）にあたる22歳までとした」と回答しました。次に，「報告内容については，一つ一つを会員に問うて確認していく必要がある」とのご意見をいただきました。それに対し，「理事会と連携して取り組んでいきたい。温かいご支援をお願いしたい」と述べました。

なお、11月10日に開催された第4回理事会において，「本プロジェクトを2024年度から3年間の継続とすること，メンバーの退任に伴い補充と増員を行うこと」を承認されました。

新メンバーの募集等については，学会ホームページとメーリングリストにより行い，8名の公募に対して5名の応募がありました。応募者全員を選定し，新たな体制は，継続メンバー9名と合わせて14名で構成されます。

これまでの成果を基盤に，新たな知見と情熱をもって，皆様とともに，前進してまいります。ご支援ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

新たに加わったメンバーは、下記の方々です（五十音順）。

- 雨宮麻衣子（児童養護施設　二葉むさしが丘学園）
- 上原　美子（埼玉県立大学）
- 鈴木　雅子（西九州大学看護学部看護学科）

・土屋　綾子（城西国際大学看護学部看護学科）
・山本　美和（前愛知県愛西市立立田北部小学校）

理事会の議事について

総務担当常任理事　塚原加寿子

ここには審議事項のみを掲載しました。議事録は、学会誌第28巻第2号(2025年3月末発刊予定)に掲載いたします。

＜2023年度第4回理事会＞

1．日　時：2024年11月10日（日）10：00～12：00
2．場　所：京都女子大学大川研究室、Webシステムにて開催
3．出席者：理事15人（欠席2名）、監事2名
4．審議事項
1）定款の変更及び規程等の改正
2）2025年度研究助成金研究の選定と今後の対応
3）2023年度事業報告（案）について
4）2023年度決算（案）について
5）2023年度の委員会活動報告（案）について
6）2024年度事業計画（案）について
7）2024年度予算（案）について
8）推薦理事候補者の選任にむけた手順について
9）第4回（2024年度）定時総会（代議員総会）関係
10）第2回及び第3回ウェルビーイング研修の報告とプレコングレスの開催について
11）「養護学の構築にむけたプロジェクト」の任期及びメンバーについて

事務局からのお知らせ

総務担当（前広報担当）常任理事　塚原加寿子
総務担当理事・事務局長　加藤晃子

会員の皆様には、平素より学会運営にご理解とご協力を賜り深く感謝いたしております。

● 代議員総会を開催しました。

2024年12月6日（金）に第4回（2024年度）定時総会（代議員総会）並びに第1回臨時総会（代議員総会）を開催し、提案事項は原案どおりに承認されました。議事録は、学会誌第28巻第2号に掲載いたします。

● 2024年度年会費の納入をお願いいたします。

2024年度の会計期間は2024年10月1日から2025年9月30日までです。すでに、会員の皆様には年会費振込票をお送りしていますので、速やかに納入をお願いいたします。

● メール登録はお済みでしょうか。

オンライン研修会等の開催連絡をはじめ、タイムリーな情報提供のためにメールアドレスのご登録をお願いしています。

未登録の方は、至急、右のQRコードまたは学会HPからお知らせください。

● 『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞』の残部が少なくなりました。

ご購入申し込みは、右のQRコードまたは学会HPのフォームをご利用いただくと、簡単にできます。

● 既刊学会誌は、第26巻第2号までを学会HPに掲載しています。

全頁掲載である創刊号を除いて、各号の巻頭言、特集、研究論文、学術集会企画、要望書等をアップしています。第27巻第1号・第2号は会員の皆様にはお届けしていますが、第28巻第2号の発刊（本年3月末予定）の後にHPに掲載いたします。

● J-stageへの掲載を進めています。

研究論文について、J-stage（科学技術情報発信・流通総合システム）による公表を順次進めており、現在は第25巻、第26巻を公表しています。

閲覧方法ですが、J-stageにアクセス後、「資料を探す」を選択し、「日本養護教諭教育学会誌」で検索していただくとご覧いただけます。また、各検索サイトからもご覧いただくことができます。第24巻以前の公表を進めていますので、少々お待ちください。

編集後記

ハーモニー第87号の発行から担当しておりました西岡、山本のコンビは第96号でラストとなりました。これまで原稿執筆にご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。

今回の原稿では、楽しかった第32回学術集会（日立市）を思い出しました。実行委員の先生方、スタッフの皆様、ありがとうございました。小さな世界で、日々仕事に追われ、奮闘している毎日ですが、ハーモニーを通して養護教諭教育学会の先生方とつながっているように思います。次号からは、西岡は編集委員長として，山本は引き続きハーモニー担当として携わります。第2期もどうぞよろしくお願いいたします。

（西岡かおり・山本訓子）